

人工衛星搭載ハイパースペクトルセンサがとらえた 東京湾（１）

データ収集：米国航空宇宙局（NASA）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前号に続き、地球観測衛星 1 号（EO-1：Earth Observing 1）に搭載されている「ハイパースペクトルセンサ（Hyperion）」がとらえた東京湾の映像（地上分解能 30m）を掲載しました。左側は、バンド 29（641nm）、バンド 23（579nm）、バンド 12（468nm）のデータをそれぞれ「赤、緑、青」のプレーンに割り当ててカラー合成した画像（トゥルーカラー）です。右側は、水域部の画像濃度値をランク分けして表示（シュードカラー）したものです。水深や流れのパターン、濁度等の違いが色の違いとなって現れています。特に荒川や旧江戸川の河口近くに淀み域があることが判ります。242 バンドにおよぶ観測波長帯域で映像を取得できる Hyperion データは、陸域は言うまでもなく、水域環境の分析精度の向上に期待が寄せられています。

